

2020年9月2日(水)第1水曜祈祷会

ルカの福音書20:20～26

「神のものである喜び」

■律法学者たちと祭司長たちの策略

- ①税金問題 → ユダヤの成人男子の納税は毎年一デナリずつ(経済的な問題ではない)
- ②税金問題は巧みに仕組まれた言葉の罠 → 神への誠実か、ローマ帝国への服従か
- ③義人を装った回し者を遣わした → イエスを訴える口実を見つけ、総督に引き渡すため

■当時のユダヤの時代背景

- ①ローマ帝国の属領 → 税金はローマ政府に支払う
- ②積極的な納税賛成者 → ヘロデ党とサドカイ人 (体制側)
- ③消極的な納税反対者 → パリサイ人とエッセネ派
- ④反抗(過激)な納税反対者 → 熱心党ほか (反体制側)

■回し者たちの悪巧み

- ①いかにも義人を装い、イエスさまを敬っているかのごとく「先生」と近づいていく
- ②三つのへつらいのことば → 正しい教え、人を偏り見ない、真理に基づいた神の道、
- ③相反する二種類の異なった人々を遣わした(マルコ12:13～)
→ イエスさまが納税についてどちらに答えても罠にかかるように仕向けた
- ④是が非でもイエスさまを陥れ、総督に引き渡したかった

■イエスさまの明確な答え

- ①イエスさまは彼らの悪意を見抜いていた →
- ②デナリ銀貨(一日の労働賃)を見せるように → カイザルの肖像(カイザルの持ち物)
- ③「カイザルのものはカイザルに返しなさい」 → ローマの平和に対して税を治める
- ④人間は神のかたちを帯びている → 私たちの全存在は神に帰するものである
- ⑤「神のものは神に返しなさい」 → 神の恵みに応えて自らを神にささげる

まとめ:「神のものである喜び」

- ・キリスト者はこの世に生きる者として、地上の権威と法秩序に従い、市民としての義務を果たす。
- ・みこころが天で行われるように、この地でも行われるように。
- ・天に国籍を持つ神の民として、神の支配にすることを喜びつつ、地の塩、世の光として生きる。

『こういうわけで、あなたがたは、食べるにも飲むにも、何をするにも、すべて神の栄光を現すためにしなさい。』
(Iコリント10:31)